

末栖大使報告書

814-2

REEL No. A-0300

0203

アジア歴史資料センター

3126

トモ英米蘇三國間ニ歐州第二戰線速等問題協議ト關連シ平和ニ關スル何等カノ交渉行ハレ居ルハ大体之ヲ推斷スルニ難カラズ、(六月十一日乗船後、英、蘇、米、蘇協定成立ノ報ヲ聞ク)幽居中纔カニ「ニューヨーク・タイムス」ノミヲ通ジ外間ノ消息ニ接シ居ルノミニシテ、歐州方面外交情勢ノ如キ素ヨリ之ヲ詳カニセザルモ、右ノ如キハ戰爭遂行ノ一面各國ノ外交的活動ガ決シテ休止シ居ラザルヲ物語ル好個ノ一例ト認メラレ、我國トシテモ軍事行動及東亞共榮圈確立ニ必要ナル政治經濟上ノ目的諸工作ヲ進ムルト共ニ、常ニ外國外交上ノ動向ニ留意シ、其ノ間ノ對策萬遺算ナキヲ期セザルベカラズ。

(終り)

六月五日稿

外務省

(日本標準規格B6)

INT 577

61

936

3126

「カレデディア」、モルダヴィア、白露、「ウクライナ」、「ダニュープ」三角洲、「カルバト」分水地區ノ確保ヲ主張シ、特ニ「バルト」三國併合ニ關シテハ媾和ニ於テ議スベキ議題ノ範圍外ナリト強調セル外、芬蘭、羅馬尼等方客年六月以降占領セル地區ノ返還ヲ要求シ、波蘭ニ於テハ蘇波兩國間ニ常ニ直接交渉ノ途開カレ居レリト述べ、「スターリン」ハ既ニ強力ニシテ獨立ナル波蘭ノ再建ヲ誓言シタリ云々ト宣傳セシメ居ルハ頗ル注意ニ値スベク、一方六月二日英國上院ノ討議ニ於テ植民大臣「クランボーン」卿ガ目下英、米、蘇其ノ他ノ與國間ニ戰後平和ノ問題ニ付協議進行中ナル旨答辯シ居ル事實、及米國ノ羅馬尼、匈牙利、勃牙利三國ニ對スル宣傳布告ガ主トシテ蘇聯ノ要請ニ依ル旨ノ報道專ラナル事情ニ鑑ミ、最近數ク

(日本標準規格B6)

INT 577

60

935

REEL No. A-0300

アジア歴史資料センター

外機密

IPS Doc No. 3126

3126

IPS Doc No. 3126

昭和十七年六月五日稿

來
栖
大
使
報
告

INT 577

1

875

REEL No. A-0300

0284

アジア歴史資料センター

昭和十七年八月五日稿

來栖大俠報告

876

REEL No. A-0300

0206

アジア歴史資料センター

3126

目次

一、渡米ノ經過、	頁
二、太平洋横斷、	頁
三、交渉經過、	頁
四、開戦後ノ諸情勢、	頁

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

3

873

3126 A

3126

昭和十七年六月五日稿

來栖大使報告

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

2

872

REEL No. A-0300

0286

アジア歴史資料センター

3126

置モ内容的且時間的ニ幅員愈々狹隘トナリ居リ、特使遣米ノ如キモ交通杜絶ノ現状ト併セ考ヘ一時ハ全ク斷念ノ外ナシト觀念シタルガ如キ事情ナリ云々ト云フニ存ス。唯外相等ノ説明ニ依レバ幸ヒ此ノ際米國側ノ協力ヲ得テ「クリッパー」機ニ依ル太平洋橫斷可能トナルニ於テハ着米後僅カ作ラ多ク交渉ノ餘日ヲ存スルコトトナルベキ計算トナル趣ナルト共ニ、我方ノ最後案トシテ席上内示セラレタル甲、乙ノ兩案ハ方式比較的簡單ニシテ與ヘラレタル短日時間ニ於テ之ガ交渉妥結ニ努メ以テ局面打開ノ端緒ヲ拓キ得ルカ、又ハ少クトモ常ニ疑問ノ中心トナリ居ル米國側終局ノ吐裏突止メニ資シ得ベキモノナリト判斷シタルヲ以テ不肖敢テ重任ニ當ルベキ旨ヲ回答ス。蓋シ我國トシテ殆ト未曾有ノ重大事態ニ直面シ之ガ突破ニ舉國一致

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

5

880

3126

一、渡米ノ経緯

昭和十六年明治節夜半突如急使ニ接シ外務大臣官邸ニ赴ク、樓上ニ會スル者東郷外相、西次官以下對米交渉關係主管ノ局課長ニシテ、將ニ重要會議ヲ終レルモノノ如シ、席上外相ハ一應對米交渉ノ現状ヲ説明シタル後、本使ニ求ムルニ此ノ際特使トシテ渡米、交渉妥結ノ爲最後ノ努力ヲ試ミシコトヲ以テス。蓋シ外相ノ説明ニ依レバ日米ノ國交ハ今ヤ全ク危殆ニ瀕セリト云フノ外ナキガ如クニシテ、即チ交渉ニ於ケル米國ノ態度ハ依然執拗強硬何等妥協ノ氣勢ヲ示サズ他方米國ノ經濟的壓迫ハ益々重キヲ加ヘ來リ之ニ對處スベキ勇斷モ此ノ上ノ猶豫ヲ許サザルモノアル大勢ナルニ加ヘ、彼我兵力展開ノ關係モ亦頗ル機微ニシテ、此ノ際局面打算ノ爲緩カニ殘サレタル措

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

4

879

3126

ニ「グルー」米國大使ノ斡旋ヲ求ムルコトトシ茲ニ一應ノ打合セラ
了シ、關係重要書類ヲ受取り歸宅萬感ヲ胸ニシテ敢テ一睡ヲ試ム。
翌朝來更ニ關係書類ノ檢討、係官ノ説明聴取ニ依リ從來比較的順調
ナリシ交渉ガ七月下旬ノ我軍南部佛印進駐ニ依リ俄然行惱ミニ陥リ
タル経緯、及現下交渉ノ主タル難點ガ(一)支那撤兵問題(二)支那門戸開
放問題(三)日、獨、伊三國條約問題ノ三者ニ存スル消息概略判明セル
ガ、其ノ間東郷外相ハ總理大臣ヲ經テ本使遣米ノ件ヲ奏上、又係官
ヨリハ米國大使ガ斡旋ヲ快諾國務省ニ打電稟請セル旨ノ報告アリ、
午後ニ至リ米國政府ハ本使ノ爲「クリッパ」機座席ヲ留保スルト
共ニ同機ノ定期出發期日ヲ二日間繰下ゲ本使ヲ香港ニ待ツ旨ノ回答
アリ、渡米ノ事萬事茲ニ決ス。仍テ當日午後更ニ東郷外相ト諸般ノ

(日本標準規格B5)

INT 577

7

882

3126

ヲ必要トスベキハ言ヲ俟タザル所ナルガ、國民各層ノ衷心ヨリ油然
トシテ盛り上リ來ルガ如キ^算ノ國民結束ハ決シテ之ヲ強壓ニ求ムベ
カラズ、國民ノ全部ヲシテ我國ガ最後ノ瞬間ニ至ル迄平和保持ノ爲
有ユル手段ヲ盡シタルコトヲ明知セシムルニ依リテノミ始メテ達成ヲ
期シ得ベキナリトハ本使從來ノ主張ナルニ加ヘ、事態急迫セル今日
靜カニ最適任者ヲ物色詮衡スルノ遑ナキハ勿論、計畫セラレツツア
ル旅行ノ方法ニ鑑ミ老齡練達ノ先輩ヲ煩ハスガ如キコト又至難ニシ
テ、結局本使ニ於テ引受クルノ外ナキヲ覺悟セル結果ナリ。次デ本
使ヨリ從來ノ交渉經過ニ通セル適當ナル隨行書記官ノ撰擇ヲ求メ次
官等協議ノ結果、大体前亞米利加局第一課長結城司郎次氏ヲ煩ハス
コトトナリ、更ニ飛行機ノ座席確保ニ關シテハ加瀬課長ニ於テ速カ

(日本標準規格B5)

INT 577

6

882

REEL No. A-0300

0288

3126

打合ヲ了シタル末午後七時東條首相ヲ陸相官邸ニ訪問、初對面ノ同
首相ヨリ遣米使節トシテ指示ヲ求メタルガ、首相ハ上奏ノ際本使健
康ニ付畏クモ御下問アリタル旨ヲ謹話セラレ唯感泣ス、同首相ハ本
使今次使命達成ヲ頗ル困難ナリトナス點ニ於テハ勿論外相ト異ル所
ナキモ、尙米國ハ(一)南洋作戰ノ用意不十分ナルコト(二)米國民ノ全部
ハ未ダ參戰ヲ支持シ居ラザルコト(三)護謨、錫等ノ重要國防關係物資
ノ手當不十分ナルコト等ニ鑑ミ濫リニ開戰ヲ欲セザルベク交渉成立
ノ見込必ズシモ絶無ト斷ズベカラズ、成否ハ先ヅ成功三分失敗七分
位ノ公算ナルベシトナシ、唯前記交渉ノ三難點中撤兵ノ問題ハ斷ジ
テ讓歩ノ餘地ナキコト及諸般ノ關係ニ鑑ミ交渉妥結ニ一定期間以上
ノ遷延ヲ許サザル事情ヲ力説シタリ、仍テ本使ヨリ二、三重要點ニ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

8

883

3126

付質問シ且舉國一致ニ酬スル忌憚ナキ意見ヲ開陳シタル上辭去シ、
次ニ舊知ノ米國大使ヲ訪問飛行機座席幹旋ノ勞ヲ謝シ且暇乞ヲ述べ
タル處、同大使ハ本使ガ何カ新ナル提案ヲ携行スルモノナルヤヲ質
問シ本使ガ之ヲ否定セルニ對シ頗ル失望ノ面持ヲ示シ斯ノ如クンバ
態々渡米セラルルノ要ナント觀測セラルル旨ヲ舊知ノ間柄トシテ無
遠慮ニ申述べタルヲ以テ、本使ハ事態頗ル急迫セル今日ニ於テ貴大
使ノ期待セラルルガ如キ局面急速打開ノ妙案アリトセバ敢テ本使ノ
渡米ヲ俟ツ迄モナク即刻華盛頓ニ打電セバ事足ルベキ筋合ト思考セ
ラルルモ、唯帝國政府トシテハ此ノ際平和保持ノ爲總テヲ盡サント
スル趣旨ニシテ例ヘバ華府ニ於ケル日米雙方ソ交渉當事者共ニ過
半歳餘ノ久シキニ亘リ、同一論點ヲ繰返シ論議シ來レル關係上、其

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

9

884

3126

ノ觀點自然一種ノ型ニ嵌マリ來レルガ如キコト人間トシテ絶無ナル
ヲ保シ難カルベク、幸ヒ本使ノ參加ニ依リ交渉上多少ナリトモ新生
面ヲ發見シ得ルガ如キコト或ハナキニシモ非ザルベシト考ヘ居ル次
第ナリト應酬セル處、大使モ納得スル所アリタルモノノ如シ。辭去
ニ際シ舊知ノ大使夫人ヲモ招ジ來リ交々本使ト固ク握手、夫人ノ如
キハ遂ニ落涙數行ニ及ベリ、蓋シ同大使夫妻ガ多年本邦ニ在勤シ日
米國交増進ニ盡瘁シ來レル經緯ヲ思ヘバ、同氏夫妻ノ胸中モ亦推測
ニ難カラズ。同夜更ニ引續キ有田前外相ヲ訪問意見ヲ交換國內方面
ノ重大消息ヲ聴取シタル上、同氏ノ質問ニ應ジ作戰計畫進展ノ場合
ニ關スル本使ノ心境ヲ披瀝ス。歸途更ニ引續キ吉田茂氏ヲモ訪問意
見ヲ交換午前二時歸宅假睡、午前四時出發東京驛ニ向ヒ結城書記官

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

10

885

3126

島津祕書官等ト横須賀線一番列車ヨリ追濱ニ至リ、少憩後海軍中型
爆撃機ニ便乗一路台灣ニ向ヒ午後四時高雄附近ノ岡山飛行場ニ達ス。
翼ヲ連ネタル海軍航空機ノ雄姿飛行場ヲ壓シ切々トシテ胸ヲ打ツモ
ノアリ。

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

11

886

REEL No. A-0300

0290

アジア歴史資料センター

3126

ニ太平洋横断

十一月五日早朝臺灣發澳門附近ノ我方海軍第六基地ニ飛行、同地ヨリ小汽船ニ依リ澳門着、同夜半香港行汽船ニ便乗六日早朝同地着、直チニ飛行場ニ向ヒ、馬尼刺通ヒノ比較的小型飛行機ニ依リ午后二時頃比島ニ到着ス。比島ハ約二十年前本使ノ總領事トシテ在勤セル舊任地ニシテ舊友少カラス、一ケソン」大統領ノ命ニ依リ本使ヲ出迎ヘタル一コンラード・ベニテス」ノ如キ其ノ一人ナリ、飛行場ヨリ馬尼刺ニ至ル途上瞥見スル所ニ依レバ、本使在任當時ニ比シ諸般ノ施設ノ發達顯著ナルモノアルヲ認ム。「ケソン」大統領ノ好意ヲ受ケ同氏ノ賓客トシテ馬尼刺「ホテル」一室ニ少憩ノ後、一ケソン」大統領及「セイアー」高等辨務官ヲ訪問ス、前者ハ本使多年ノ友人

(日本標準規格B5)

INT 577

12

886

3126

ニシテ、後者ハ往年本使ガ通商局長ノ任ヲ終リ新任地白耳義ニ赴任ノ途次華府ニ於テ當時國務省第二次官タリシ「セ」ト通商交渉ヲ行ヘル關係アリ、之亦舊知ノ間柄ナリ。「ケソン」トノ會談ニハ中途ヨリ舊友「オスメミア」副大統領モ列席、種々懇談セルモ多クハ所請昔話ノ範圍ヲ出デス、唯一ケソン」等ガ比島人ノ立場ヨリ日米國交ノ前途ニ頗ル關心ヲ抱キ居ルハ十分之ヲ觀取シ得タリ、右會談中一ケソン」ガ往年我國ニ於テ、松山前外相ト會談シ頗ル深キ印象ヲ受ケタル旨ヲ洩ラスト共ニ、比島トシテハ日米關係ノ前途ガ和戰何レニ決スルトスルモ、豫定ノ如ク一九四六年ニハ必ズ獨立ヲ得ルコトトナリ居ル旨ヲ語レル點、殊ニ本使ノ注意ヲ惹ケリ。

(日本標準規格B6)

INT 577

13

888

3126

ルハ言ヲ俟タス、本使トシテハ「セ」ガ豫テ「ハル」國務長官ノ下ニ勤務シ、且通商自由論ニ於テ常ニ同長官ト所説ヲ同ジウシ居リ、兩者ノ關係相當密接ナルモノアリト推定セラルルモノアル外、嘗テ米内閣當時「セ」ハ本邦ヲ來訪シ、有田外務大臣ト日米問題ニ付意見ヲ交換セル經緯アルヲ想起シ、此ノ際本使ノ使命ニ付相當強ク同人ニ印象シ、自然之ヲ華府ニ傳達セシメ置クコト機宜ノ處置ナルベシト信ジタルニ付、先ヅ本使ノ使命ガ頗ル困難ナリト信セラルル所以ヲ縷々説述シ、現ニ馬尼刺港内ヲ瞥見セルノミヲ以テ之ヲ判ズルモ日米兩國關係ハ頗ル緊張セル状態ニアリト認メサルヲ得ズト述ベタルニ對シ、「セイアー」ハ本使ノ意見聊カ悲觀ニ失セズヤト述べタルニ付、本使ハ華府會議以來、支那ガ九ヶ國條約其ノ他ニ依リ

外務省

(日本標準規格B6)

IMT 577

14

889

3126

恰モ反日運動ノ白紙委任狀ヲ受取リタルガ如クニ振舞ヒ、英米ノ後援ヲ目當トシ頻リニ抗、排日政策ヲ續ケ、日支關係ハ固ヨリ、日米關係モ之ガ爲又常ニ紛争ノ渦中ニ投ゼラレ來レル經路ニ鑑ミ、兩國ノ確執ハ頗ル根深キモノアリ、今ヤ米國ハ對日經濟壓迫ニ依リ、飽迄如上ノ對支政策ヲ推行セントスルモノノ如ク、本使ガ日米國交ノ前途ヲ憂慮スル所以玆ニ存スト述ベタルニ對シ、列席ノ國務省員「ソルスベリー」書記官ハ、右本使所論中華府會議ニ關スル部分ニハ全然同感ナリト合槌セルヲ以テ、本使ハ續イテ米國側ハ通商條約ノ廢棄、資金凍結、對日輸出禁止等ニ依リ、結局日本ヲ屈服セシメ得ルカノ如ク考ヘ居ルガ如キモ、斯ノ如キハ全ク我が國民性ヲ無視セル謬見ニシテ、日本人ハ其ノ進退ヲ決スルニ當リ、常ニ所謂瓦全ヨ

外務省

(日本標準規格B6)

IMT 577

15

889

3126

リ玉碎ヲ撰フモノナリト説示シ、更ニ右玉碎云々ノ條下ヲ日本語ヲ以テ述ベ邦語ニ巧ミナル「ソルスベリー」書記官ヲシテ之ヲ翻譯セシメタリ。次「テーセ」ハ得意ノ通商自由ヲ基礎トスル世界平和論ヲ述ベタルニ付、本使ハ米ノ高關稅政策ハ暫ク之ヲ措クトスルモ、所謂「オッタワ」會議以來英帝國ノ執リ來レル經濟「ブロック」政策全然「セ」高等辨務官ノ主張ニ背馳スルモノニ非ズヤト指摘セル處「セ」ハ戰後ニ於ケル英帝國ノ地位ハ現在ト頗ル異ルモノアルベク斯ノ如キ我儘ハ許サルベキ限リニ非ズト述べ、意氣頗ル軒昂タルモノアルヲ認メタリ。

後刻新納總領事主催「レセプション」席上ニ於テ「セ」ハ「ハート」提督等ト共ニ來會、本使ニ對シ由ビ通商自由論ヲ繰返シ居リタルガ

IMT 577

16

891

3126

「ハル」長官ガ常ニ通商自由ヲ基礎トスル世界平和確立ヲ主張シ、英米兩首腦者合作ニ係ル「アトランチック・チャーター」中ニモ特ニ之ヲ強調セシメ、又今次ノ日米交渉ニ於テモ支那ニ於ケル門戶開放ノ擁護ヲ以テ我國ニ對スル主張ノ主要ナル一點トナシ來レル所以ハ、恐ラク此ノ種漠然タル理念論ニ出デ來ルモノ渺カラサルベシト信ス、右「レセプション」ノ間、「ケンソン」大統領ガ更ニ本使ト會見ヲ欲シ居ル旨同大統領秘書官ヨリ傳ヘ來レルモ、時既に遅ク遂ニ其ノ機ヲ作ルヲ得ズシテ終レリ。翌七日比島發途中「グアム」一ウエーク」各々一泊「ミッドウエー」島着、飛行機故障ノ爲遂ニ同島ニ三泊ノ餘儀ナキニ至レリ。同島滯留中、本使ト同乗ノ旅客ニシテ元上海市參事會議長タリシ「チケズウィック」ヨリ、接近ヲ求め來レ

IMT 577

17

892

3126

ルニ付少時雑談ヲ交ヘタル處、同人ハ本使ノ使命ニ對シ遺憾ナラ、時期既ニ遅レタリト思考スル旨ヲ述べタリ。蓋シ今次日支事變勃發以來多大ノ經濟的損害苦痛ヲ蒙リタル、「ジャーデン・マチソン」商會ノ首腦トシテ、同人ガ我國ニ對シ所感カラル極メテ自然ノ感情タルベキモ、唯同人ガ最近迄「ダフ・クーパー」ノ片腕トシテ新嘉坡方面ニ活動シ、「ダ」ト共ニ南西太平洋各地ヲモ視察セル結果、今ヤ報告ヲ携ヘ米國經由英ノ途次ニアルモノナル事實ニ鑑ミ、右同人ノ所言ハ特ニ意義深キモノアリト信ゼラル。其ノ後同人ハ本使ガ旅行ノ途中各地ニ於テナシタルプレス・インターヴィュー「」ノ後、竊カニ「二ノ記者ニ對シ、本使ガ今次ノ使命ニ付極メテ悲觀的見透シヲ有シ居レリ云々、又ハ本使自ラ交渉ノ成功率ヲ十

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

18

893

3126

對一ト稱シ居レリ云々等ノ言ヲナシ、交渉ノ前途ニ大ナル期待ヲ懷カシメザランコトヲ努メ居リタルガ如シ。尙同乗ノ一客ニシテ多年本邦關西地方ニ居住シ、本邦人間ニ知人多ク、本使トモ面識アル一加奈陀人「ジェームス」ガ、結城書記官ニ内話セル所ニ依レバ、同乗旅客中ノ英、米軍人多數ハ、極東在留ノ英、米人ガ最早妥協ニ依ル對日國交ノ調整ヲ欲シ居ラザルヲ唱ヘ、且之等在東亞英、米人ハ日支事變以來、彼等ガ支那人ノ面前ニ於テ、帝國軍隊ヨリ蒙リタル屈辱ヲ拂拭スル爲、先ヅ日本軍ヲ撃破シ、上海市内ヲ軍樂隊ニテ練リ歩キタル後ニ非ザレバ、眞ノ對日國交調整ハ不可能ナリト迄極言シ居レリ云々ト傳ヘ居リタル趣ナリ。以上ハ蓋シ東亞ニ在在スル英米人多數ノ肚裏ヲ物語ルモノナルベク、「ダフ・クーパー」ノ如キ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

19

894

モ如上空氣ノ中心地ニ在リ、且新嘉坡ヲ中心トスル英、米兵備ノ不
敗性ヲ過信スルト共ニ、米國參戰ノ利益ヲモ計量シ、此ノ際寧ロ日
本ト一戰ヲ辭スベキニ非ズトノ意見ヲ保持シ、之ヲ倫敦中央部ニ建
言シタリ云々ト傳ヘラレ居ルハ、蓋シ事實ニ近カルベシト推察ス。
十一日飛行機修理成リ早朝出發午後眞珠灣ニ着ス、上陸ニ際シ多數
ノ新聞記者集マリ來リ種々質問ノ際、最近「チャーチル」英首相方
英國ハ日米匪戰ノ場合一時間ヲ出デズシテ米國側ニ立ツテ參戰スベ
シト述べタル旨ヲ傳ヘタリ、右ハ既ニ「ミッドウエー」島滯留中無
電新聞電信ニ依リ、概略承知シ居リタル所ナルガ、要スルニ英國ハ
今次ノ交渉ニ關シ、斡旋ノ勞ヲ採ラントスルガ如キ意向全クナク、
日米匪戰ノ場合日本參加ニ依ル「マイナス」ト、米國參戰ニ依ル「

(日本標準規格B5)

IMT 577

20

885

プラス」トヲ衡量シ、後者ノ利益巨大ニシテ得失比較ニナラスト計
量シ居ルコト、大體明カトナレル次第ニシテ、又從テ本使ガ出發前
一方面ヨリ聴取セルガ如ク、我方乙案類似ノ妥結案ニ對シ、在東京
英大使ガ米大使ヨリ寧ロ實際的ナル考慮ヲ有シタリ云々ノ情報ノ如
キ、果シテ眞ナリトスルモ、上述英本國政府ノ政策ニ鑑ミ、何等交
渉成立ニ資スルコトナカルベキコト一層明瞭トナリタル次第ナリ。
眞珠灣ヨリ米國艦隊ヲ瞥見シツツ、「ホノルル」ニ至リ同地一泊
十二日「カリフォルニア・クリッパー」機ニ依リ出發機上ニ泊、翌
十三日桑港着、少憩ノ後所謂「ストライト・ライナー」ニ依リ九千
尺前後ノ高度ヲ飛行シ、又機上ニ一睡、翌十五日紐育ニ着ス、紐育

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

21

886

3126

交渉経過

十七日野村大使ト共ニ先ツ「ハル」國務長官ニ會見、同長官同道セラレ白聖館ニ大統領ヲ訪問シ、國務長官列席ノ上ニテ第一回交渉ヲ開始ス。以來大統領ト會見スルコト更ニ一回（十一月二十七日）、國務長官トノ會見十回（十一月十七、十八、二十、二十一、二十二、二十六、二十七、十二月一、五、七ノ各日）、國務次官ト會見セルコト一回等、頻繁ナル公式交渉ヲ重ナル外、「ウォーカー」郵務長官トノ私的會談二回、「バーナード、バルーク」氏トノ懇談一回（十一月三十日）、及從來側面ヨリ本交渉ヲ援助シ來レル「ウォルシュ」僧正（本使ト同乗飛來）、「ドラウト」師トノ數次接觸劃策スル等、種々交渉目的ノ達成ニ努メタルモ微力何等成果ヲ擧クルヲ得

(日本標準規格B5)

IMT 577

23

898

外務省

3126

飛行場ニ於テ少憩ノ後、同日午後別機ヲ以テ華府着、直チニ大使館ニ至リ野村大使ト會談、諸般ノ打合せヲ了スルガ、大使ハ既ニ同日「ハル」長官ト會談、所謂甲案ニ關連セル討議ヲ行ハレタル趣ナリ東京出發以來十日、着シ得テ初メテ稍々心身ノ疲勞ヲ覺エタルモ、緊張之ヲ克服スルニ努メタリ。

(日本標準規格B5)

IMT 577

22

897

ス、十二月七日ノ我軍眞珠灣攻撃ヲ以テ日米兩國カ終ニ砲火ノ間ニ見ユルニ至リタリ。蓋シ右交渉經過ノ詳細ニ關シテハ既ニ逐次電報報告ノ次第アルノミナラス、客春以來交渉ノ衝ニ當ラレタル野村大使ヨリ詳細報告アリタルニ付敢テ之ヲ贅セス、茲ニ唯本使參加以後ニ於ケル交渉上主要ナル經緯、即チ(一)劈頭十七日ノ會見ニ於テ大統領カ日支ノ間ニ「紹介者」タランコトヲ申出テ其ノ席上直チニ「ハル」長官ヨリ水ヲ差サレ其ノ後遂ニ之ヲ「ドロップ」スルニ至レル經緯、(二)二十日我方ノ乙案提出後一週間ニ亘リ交渉ハ成否最後ノ岐路ニ立チタル感アルモ、米側カ遂ニ二十六日附公文ヲ發交スルニ至ル。大事殆ト去ルミ至レル過程、(三)英國カ本使ノ交渉參加ニ先立テ、對日交渉ニ關シテハ全部米國ノ善處ニ一任スル旨ヲ表明シ、在華府

英國大使「ハリファックス」氏ノ態度モ終始右方針ヲ嚴守シ居リタル狀況、(四)大統領カ陛下宛ノ親電ヲ發スルニ至レル消息等ノ中、顯著ナル諸點ニ付聊カ本使ノ觀測ヲ述フレハ左ノ如シ
(一)日支間ニ紹介者云々ノ提議ハ、恐ラク「ルーズヴェルト」大統領一個ノ政治家的頭腦ノ閃キニ出テタルモノト思考セラルルモ、曩ニ我方カ近衛「ルーズヴェルト」會談ヲ提議セルニ對シ、最初大統領ハ非常ナル乘氣ヲ示シタルニ拘ラス、其ノ後國務省事務當局其ノ他左右ノ忠言ニ動かサレ終ニ之ヲ流産ニ終ラシメタルト同様本件モ亦大体同一ノ道程ヲ經テ之亦流産ニ終レルモノト見ルヲ當レリト信ス。蓋シ支那問題ニ關シテハ、大統領ハ勿論「ハル」長官ト雖モ本來何等正確ナル知識ヲ有セス、凡テ國務省内外ノ支那

3126

通ノ言説ヲ傾聴スルノ外ナキト共ニ、「支那ヲ見殺シニスル勿レ
 (Don't sell China down the river.)云々ヲ高唱シツアリタル
 國內ノ感情的支那助成論頗ル有力ニシテ、民主國政治家トシテ之
 ヲ傾聴スルノ外ナカリシ事情等ハ大体之ヲ察知スルニ難カラス、
 其ノ後十一月三十日「バーナード・パーク」氏ト懇談ノ際、同氏
 ハ日米戦争カ全ク無意義ニシテ、且一旦開戦ノ上ハ非常ナル長期
 戦タルヘキヲ説キ、本來米國ハ東亞ニ於テハ日本、歐洲大陸ニ於
 テハ獨逸カ、最モ能力アル國家タルコトヲ容認シ之ト協力スヘキ
 ナリトノ宿論ヲ卒直ニ述ヘ、本使ヨリ右「紹介者」云々ノ始末ヲ
 聴取シ頗ル之ヲ遺憾トスルト共ニ別ニ前大戦ノ當時同氏カ「戦時
 工業委員會」(War Industries Board)委員長トシテ、全米國

(日本標準規格B5)

INT 577

26

901

3126

ノ工業動員ヲ切過シタル經驗ヲ基礎トシ、Lend Lease 法ヲ利用
 シ先ツ十億弗程度ノ日米工業提携案ヲ案出セルモノノ如ク、十二
 月三日大統領ト午餐ヲ共ニシ該案ヲ中心トシテ大統領説得ニ努メ
 タル趣ニシテ、當時同氏ハ大統領ヲ評シテ彼ハ恰モ水中ノ「トラ
 ウト」ノ如ク、最初ハ餌ヲ見サルカ如ク悠然右往左往シ居リツツ
 突如喰ヒツキ來ル男ナリト云フ頗ル望ヲ懷キ、更ニ十二月八日同
 件ニ付大統領ト會見ノ約束ナリ居リタル由ナルモ、七日開戦萬事
 休スルニ至レルモノナリ。

(日本標準規格B5)

INT 577

27

902

REEL No. A-0300

0298

アジア歴史資料センター

3126

(二)米側が我方乙案審議ニ費セル一週間ハ、尠クトモ本使參加以後ニ於ケル交渉中最モ重要ナル時期ト見ルヲ得ベク、一時所謂早耳筋ニ於テハ暫定的協定成立スベシト放送シ、更ニ穿チタル情報トシテハ國務省事務當局が我方提案ニ對シ硬軟兩様ノ對案ヲ用意シ連日協議ヲ重ネ居レリ云々トスラ傳ヘ來ルモノアル有様ナルノミナラズ、當時在米支那大使ハ宋子文ト共ニ大統領ヲ白亞館ニ訪問會談約三十分ニシテ辭去シタルガ態度甚ダ不機嫌ニ見受ケラレタリ云々ノ新聞記事モ現ハレ、且多クノ新聞ハ右ハ恐ラク米國ガ日米妥結ノ爲支那ヲ見殺シニセントスル氣配アルヲ恐レ、之ニ對シ警告ヲ與ヘタルモノナルベシトノ觀測ヲモ加ヘ居リタリ、蓋シ右ハ何レモ當時ノ空氣ノ一端ヲ物語ルモノナルベシト信ズ。

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

28

903

3126

之ヨリ^先我方乙案提出ニ付多少參觀セル「ドラウト」師ヲ通ジ此ノ間ノ事情ヲ豫知シ居リタル「ウォルシュ」僧正ハ、十九日特ニ本使ヲ來訪シ、自分ノ得居ル情報ニ依レバ米國側ハ我方ガ佛印南部ヨリ撤兵ノ意嚮ヲ通告スルト同時ニ石油輸出禁止解除ヲ通告シ、右ヲ契機トシ諸縣案解決ノ段取ニ決定セル趣ナルヲ傳ヘ、本使ニ對シ使命成功ノ祝辭ヲ述べ辭去シ、又十九日夜會見セル「ウォーカー」郵政長官モ大体同一ノ情報ヲ洩ラシタル如キ事實アリ其ノ後愈々具体化セル我方ノ提案ガ、南部佛印兵力ノ北部移駐ヲ約スルニ止メ、且同時ニ對蔣援助打切ヲ要求シ居ル等、右郵政長官等ノ期待セル所トハ相當ノ開キアリ、爲ニ其ノ間ノ空氣モ著シク變化ヲ見タルニ拘ラズ、「ハル」長官ノ如キハ其ノ後即チ二十

(日本標準規格B5)

IMT 577

29

994

3126

ニ關スル交渉進行中ナリトノ報道頻々タリシニ鑑ミ、一方日米妥協成立シ、他方我軍ノ泰國進駐ヲ見ルガ如キ事態トナルニ於テハ米國政府ノ面目丸潰レトナルベキヲ恐レタル點渺カラザルベク、十一月二十七日會談ニ於テ、大統領ガ「二度目ノ冷水ヲ浴ビセラハルル惧レ」云々ト稱セハ、全ク此ノ意ニ出ヅルモノナルベシ。

(三)英國側態度ニ關シテハ既述ノ英政府聲明、英首相演説、「ケズウイック」ノ言動等ニ依リ既ニ明カナルモノアル外、前項ノ期間中本使ガ野村大使ト共ニ「ハリファックス」ヲ訪問セント試ミタルニ對シ、當時費府方面ニ旅行中ナリシ同大使ハ、歸華後モ別段連絡ヲ取り來ラズ。更ニ米側二十六日ノ公文發送前ノ關係國會議ニモ參加シ、且右公文ニ依リ形勢俄然緊迫セルヲ承知セル在米濠洲

外務省

IMT 577

31

906

3126

一日本使ガ單獨私的ニ會談セル際ニ於テモ、尙米國政府首腦部内ニ種々複雑セル事情アルヲ内話シ、其ノ若衷ヲ慰ヘ居リタルガ如キ有様ニシテ、當時米政府部内ニ於テ、對日妥結説ト右反對説トガ相當期間ニ亘リ對立ヲ續ケタルハ、事實ナリト見ザルベカラズ。右對立ガ終ニ非妥協論ノ勝利ニ終レル經緯ニ關シテハ、恐ラク種々複雑ナル事情存スベシト雖モ、當時我軍ノ南進ヲ報道スル新聞情報支那方面ヨリ頻リニ傳ハリ來リ、且在本邦米國新聞通信員等ガ、本邦各方面ノ排英米論ト稱スルモノヲ蒐集打電シ來レルハ頗ル注目ヲ惹キタリ。「ハル」長官ガ日本側ヨリ何等交渉成立ヲ助クルガ如キ言説ヲ聞カザルヲ嘆ジタルハ主トシテ當時ノコトニ屬ス。蓋シ米國トシテハ、當時我國ト泰國トノ間ニ同盟條約締結

外務省

IMT 577

30

905

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

3126

公使「ケイシー」氏ガ、當時本使ヲ來訪シ來リ、頻リニ局面打開ノ方途ナキヤヲ尋ネ、此ノ際本使等ト「ハリファックス」トノ會談ヲ慫慂シ、自ラ「ハリファックス」ヲ訪問之ヲ「サヂニスト」スベシト稱シ辭去シタル後、數刻ニシテ右計畫ヲ「ドロップ」セル旨ヲ電話シ來レルガ如キハ、能ク英大使ノ不介入態度ヲ示セルモノト見ルヲ得ベシ。

IMT 577

32

997

3126

(四) 大統領親電ノ經緯ニ關シテハ、勿論之カ真相ヲ知ルニ由ナキモ、最初本使等ガ多少之ニ似通ヒタル點アル最後の局面打開策ヲ策シ東京關係方面ノ同意ヲ得ルニ至ラズ之ヲ拋棄セル以後ニ於テ、我方トハ全然別箇ニ、一ハ上院議員「トーマス」ノ周圍ニ於テ、二ハ「ジョンス」師 Rev. E. Stanley Jones ヲ中心トスル「キリスト」教徒ノ方面ニ於テ此ノ種計畫ニ付大統領ヲ動かサント劃策シツアル者アルヲ聞知シタルガ、敢テ之ヲ阻止スベキ方途トテナク、遂ニ該大統領親電發送ヲ見ルニ至レルモノナリ。蓋シ恐ラク前記「トーマス」上院議員若クハ「ジョンス」師ノ劃策等ニ胚胎セルモノト推測ス

本使參加後ニ於ケル交渉經過中、主要ナル諸點ハ大體上述ノ通りナ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 577

33

998

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

ルガ、更ニ根本ニ遡リ當時米側ガ果シテ全面的對日關係調整ノ底意ヲ有シ居リタルヤ否ヤニ關シテハ頗ル疑ナキ能ハザルモノアリ。一ルーズヴェルト」大統領ハ本邦ニ對シ資金凍結及石油禁輸等ノ諸方策ヲ發表セル直前ニ於テ、米國政府ハ過去ニ於テハ石油禁輸ガ日米戰爭勃發ヲ誘致スベキヲ慮リ之ヲ敢テセザリシ次第ナリト説明シ、暗ニ其ノ直後ニ行ヘル上述經濟制限措置ガ、敢テ日米開戦ヲモ辭セザル決意ニ出デ居ルコトヲ仄カシ居リ、又本年二月十九日國務省第二次官「パール」氏ガ「デモイン」ニ於ケル演説ニ於テ、米國政府ハ對日石油禁輸實施ノ當時ヨリ、日本トノ開戦ヲ覺悟シ居リタリ云々ノ趣旨ヲ述ベ居ルニ徴スルモ、米國政府ハ尠クトモ一九四一年七月下旬以降對日開戦モ亦已ムヲ得ズト覺悟シ居リタルハ大體推定ニ

(日本標準規格B5)

INT 577

34

909

難カラズ。更ニ其ノ後米國側ノ本件交渉ニ關スル意中ヲ公式ニ且最も明瞭ニ公表セルモノハ我軍ノ眞珠灣襲撃ニ關シ構成セラレタル「ロバーツ」査問委員會ノ報告ニシテ、即チ同報告ハ其ノ冒頭「査定事實」 findings of fact ノ項中第三節ニ於テ、合衆國ノ太平洋政策ハ他ノ政府（複數）ノ政策ト衝突シ居リ、米國陸海軍ハ右衝突セル諸政策ガ協調セラレザル限り、太平洋戰爭ハ不可避ナルコトヲ自覺シ居リタリ云々と述べ、次ニ第七節ニ於テ、既ニ一九四一年一月二十四日海軍長官ガ同日附陸軍長官宛ノ書翰ヲ以テ、日米國交ノ危機増大シ、眞珠灣ニ在ル太平洋艦隊ノ安全問題ニ付、再檢討ノ必要ヲ促ガスニ至レルヲ通告セル旨ヲ述べ、更ニ第八節ニ於テ、一九四一年十二月七日ニ先立ツ數ヶ月間、國務長官ハ單ニ閣議ニ於テノ

(日本標準規格B5)

INT 577

35

910

3126

ミナラズ軍事參議會 War Council ニ於テ、屢々陸海軍長官ト接
 觸ヲ保チ、且右接觸ノ機會ニ於テ對日交渉ノ進展及日米關係ノ緊張
 度益々増加シツツアル旨ヲ說述シ居リタルヲ明カニシ、更ニ第九節
 冒頭ニ於テ、海陸軍兩省ガ一九四一年十月十六日夫々布哇ニ於ケル
 海陸司令官ニ對シ、日本内閣更迭ニ基ク日蘇開戰ノ蓋然性、及日本
 ノ對英米襲撃ノ可能性ニ付通報ヲ與ヘタル旨ヲ述べ、續イテ同節ニ
 於テ、一九四一年十一月二十七日海軍作戰部長及陸軍參謀總長ハ、
 夫々布哇ニ於ケル海陸司令官ニ對シ、日本トノ交渉ハ再開ノ望殆ド
 絶無ナル狀態ニ於テ終結セル旨ヲ通告シ居リ、且戰爭辦ケ難キ場合
 ニ於テモ、米國ガ先ヅ第一ノ公然タル戰爭行爲ヲ取ルヲ欲セザル旨
 ヲ訓令シタリト述べ居レリ。蓋シ之等ノ諸項ニ徴スルモ、米國ハ夙

INT 577

36

911

3126

ニ我國トノ開戰ヲ覺悟シ居リタルコト明瞭ニシテ、殊ニ米側ガ十一
 月二十六日附公文ヲ殆ド最後通牒同様ニ取扱ヒ居リタル消息ハ、右
 報告ニ依リ炳乎トシテ明カナルモノアルニ至レリ。尙「ロバーツ」
 報告書ガ開戰ノ際日本ハ先ヅ眞珠灣ニ於ケル艦隊ヲ奇襲シ來ルベキ
 コト（第七節）、日本側ガ宣戰布告ヲ俟タズシテ襲撃シ來ルベキコ
 ト（第八節）及右襲撃ガ未明ニ來ルベキコト（第七節）等、盡ク米國
 側ニ於テ豫想シ居リタリト説明シ、更ニ日本航空機ノ襲撃ニ先立ツ
 コト約一時間、即チ同日午前六時三十分ヨリ四十五分ノ間ニ米側ガ
 先ヅ日本小型潜水艦ヲ撃沈セルコトヲ明カニシ、眞珠灣ニ於ケル喪
 斃ガ米國ガ内外ニ宣傳スルガ如ク日本側ノ詐謀（「トリッチェアリ
 ニ非ズシテ、米國自身ノ油斷タルヲ明カニシ居ルハ洵ニ奇觀ナリト

INT 577

37

912

3126

言ハザルベカラズ。

更ニ一方本使ノ舊友タル前駐蘇米國大使「デヴィス」氏ノ如キハ、十一月末本使ト社交的懇談ノ際、日米關係モ事態今日ニ至ツテハ、雙方共ニ讓歩困難ノ立場ニ陥リタルヤニ認メラルヲ以テ、日米兩國ハ結局互ヒニ技術的敵國 technical enemy タルノ外ナカルベシト述懐シタルガ、右ハ恐ラク我國ノ馬來半島及泰國進駐等ニ依リ日米兩國ガ國交斷絶關係ニ入ルガ如キ可能性ヲ想像ニ描キ居リタルニ基クモノナルベク、我國ガ四ヶ年有餘ニ亘ル日支事變ノ爲國力劣ヘ、眞逆ニ對米開戦ノ途ニハ出デ來ラザルベシト觀測セル方面ニ於テハ、右「デヴィス」大使ト同様ノ觀測ヲ下シ居リタル者、亦勸カラザリシヤニ見受ケラル。

(日本標準規格B6)

INT 577

38

918

3126

唯茲ニ注意スベキハ「ルーズヴェルト」大統領ヲ圍ム「ニュー・デール」關係者方面ノ情報、殊ニ右「グループ」中ノ一有力者トシテ知ラレツツアル大審院判事「フランクフルター」氏ノ身邊ヨリ洩レル情報ガ、最初ヨリ交渉ノ歸結ニ付頗ル悲觀的ニシテ、日米開戦ハ比較的少キ犠牲ヲ以テ參戰問題ニ付分裂シ居ル國力輿論ヲ一舉ニ一致セシメ得ベキ最上ノ手段ナリト信ジ居ル者尠カラズト傳レ來リ居リタルハ頗ル注目ニ値ス。恐ラク右「ニュー・デール」一派中ニハ日米開戦ニ依リ否應ナシニ米國ヲ完全ナル戰時體勢ニ捲込ミ、其ノ間同派ノ目標トスル國內ノ社會的及經濟的革新ヲ實現セシメント劃策セル者モ或ハ存シタルベク、現ニ開戦後米國ノ採用セル戰時經濟施設中ニハ、「ニュー・デール」的目標ヲ有スル者尠カラズ、

外務省

(日本標準規格B6)

INT 577

39

914

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

3126

四 開戦後ノ諸情勢

開戦以來既ニ約半歳、其ノ間我ガ海陸軍ノ活躍目覺マシク既ニ東亞ニ於ケル英米ノ基地ハ殆ド擧ゲテ我方ノ掌中ニ歸シタルノ觀アリト雖モ、米國ハ最初ヨリ其ノ巨大ナル經濟力ヲ以テ唯一且最大ノ力ト賴ミ、之ガ動員ニ依リ終局ニ於テ容易ニ我方ヲ壓伏シ得ベシト信ジ居ルモノノ如ク、一方又米國民モ最近ニ於テコソ増税、物價騰貴、一部物資ノ不足等ニ依リ經濟的ニ多少戰時氣分ヲ味ハヒツツアルガ如クナルモ、軍事的ニ之ヲ觀レバ開戦後日尙淺ク且戰場ハ多ク遠隔ノ地ニシテ彼等トシテハ戰前恐ラク其ノ地名ヲモ承知セザリシガ如キ地方ナルヲ以テ、肉身ヲ戰場ニ出ダシ居ル比較的少數者ヲ除キ、今尙戰爭ノ身邊ニ迫リツツアルヲ覺エズ、新聞「ラヂオ」等ニ依リ

(日本標準規格B5)

IMT 577

41

916

3126

前大統領「フーバー」氏ノ如キモ、最近（五月二十日）ノ演説ニ於テ強ク此ノ點ヲ戒メ居ルガ如キ狀勢ナリ。

(日本標準規格B5)

IMT 577

40

915

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

戰時意識及ビ敵愾心ヲ鼓舞セントスル政府ノ宣傳ノ盛ナルニ比較シ一般ニ頗ル平靜ヲ維持シ居ルモノノ如ク、一面ヨリ之ヲ見レバ今尙餘裕綽々タルモノアリト稱スルヲ得ベシ。

唯今次ノ戰爭ハ世界的ニ聯關ヲ有シ居リ、歐洲ノ戰果ハ直チニ米亞ニ影響シ來ルベク、殊ニ今後獨蘇戰ノ歸趨ガ獨側ニ有利ニ展開シ來リ、日獨ノ連絡遂ニ成ルガ如キハ英米ノ最モ恐レ居ル所ナルヲ以テ米國當局ハ頻リニ對蘇援助ノ急務ヲ主張シ、資本家方面及「カトリック」教徒方面ノ懷疑的ナル對蘇態度ヲ排撃シ、極力蘇聯ノ意ヲ迎フルニ努メ、開戰當初ニ於テハ經濟動員計畫ニ關スル巨大ナル數字ヲ羅列シ、一九四三年以後ニ於テ次第ニ樞軸側ヲ壓倒セントナスガ如キ宣傳ヲ盛ニ行ヒ居リタルニ拘ラズ、本年三、四月ノ候、蘇聯ガ

駐米、駐英兩大使ノ演說ヲ通ジ、勝利ハ一九四二年内ニ獲得セザルベカラズ、唯徒ラニ經濟力ニ關スル數字ヲ羅列スルガ如キハ無意義ニシテ、英米ハ此ノ際敢テ危險ヲ冒シテモ歐洲ニ第二戰線ヲ開始シ、速カニ蘇聯ト協力作戰ノ實ヲ舉ゲザルベカラズト高唱スルニ及ビ、米國ハ俄然當初ノ宣傳方針ヲ一變シ、右蘇聯ノ主張ニ共鳴ヲ表スルニ至レルガ、更ニ最近ニ及ンデハ英米共ニ一方蘇聯ヨリ引續キ第二戰線速開ヲ強要セラルルト共ニ、他方國內ニ於テモ「防禦ヲ以テハ戰勝ヲ得難シ」等ノ標語ノ下ニ第二戰線開始ヲ促スモノ續出シ來リ、對蘇援助ノ急務、蘇軍ノ優勢、英米物資動員ノ飛躍的進捗ヲ頻リニ宣傳セル政府及軍事當局ハ、爲ニ自繩自縛ニ陥リ聊カ之カ處置ニ窮スルニ至リ、其ノ結果頻繁ニ英米軍事當局等ヲ往復セシメ且之ヲ内

3126

外ニ宣傳シ、最近ニ至ツテハ（五月二十九日）「マーシャル」參謀
長ヲシテ陸軍士官學校卒業式演說中ニ於テ、米國遠征軍ノ佛國上陸
ヲ豫言セシムル等、只管輿論ニ迎合シテ之ガ銳鋒ヲ避クルニ腐心シ
ツツアルガ如キ實情ナリ。

大勢斯ノ如ク、對蘇戰ノ歸結ニ關スル英米ノ焦慮日ニ昂マリツツア
ルガ如キ情勢ナルヲ以テ、今後獨蘇戰局ガ英米ノ期待宣傳ニ反シ、
獨軍ノ有利ニ展開シ來リ、遂ニ蘇軍ガ決定的打撃ヲ蒙ルガ如キ事
態發生スルニ於テハ、其ノ英米陣營ニ與フベキ衝動ハ極メテ重大ナ
ルモノアルベク、殊ニ米國現政府トシテハ、本年十一月ノ政戰ヲ控
ヘ一面之ニ處スベキ黨略ニ精進シツツアル關係アルヲ以テ、今後獨
蘇戰ノ展開如何ニ關シテハ、内政的ニモ亦多大ノ關心ヲ寄セザルベ

TMT 577

44

313

3126

カラザルモノアルガ如シ。

然ト雖モ本來米國ハ歐亞何レノ方面ヨリ來ル攻撃ニ對シテモ、地理
的ニ殆ド不敗ノ地位ヲ占メ居ルト共ニ、各種動員計畫モ宣傳ヲ除キ
事實ニ於テ著々進捗シツツアルガ如クナルヲ以テ、假令今後歐洲方
面ノ戰局ガ更ニ一層不利ナル展開ヲ見タル場合ニ於テモ、米國トシ
テハ自國ノ安全ヲ懸念スルノ要殆ドナカルベク、又來ルベキ政戰ヲ
繞ル内政ノ關係ニ於テモ、何分現政府ハ過去九年ニ亘リ政權ヲ掌握
シ、其ノ間各方面ニ多大ノ勢力ヲ扶植シ居ルト共ニ、各種戰時法規
ニ依ル特別權限ヲ擁シ居ルヲ以テ、彼此合セテ殆ド其ノ意ノ儘ニ國
民ヲ引摺リ得ル強味アリ。且反對黨タル共和黨ニ於テモ現下「ウイ
ルキー」ノ一派優勢ニシテ、戰爭ニ關シテハ政府鞭撻支持、戰爭絶

TMT 577

45

920

3126

對遂行ヲ政綱トナシ居リ、二大勞働團體タル、A・F・L、O・I
 Oニ至ツテモ其ノ點何レモ同然ナルヲ以テ、今後何等カ政治ノ均衡
 ヲ破ルガ如キ重大事件ノ發生ヲ見ザル限リ、米國現政府トシテハ、
 上述戰局ノ轉換ヨリ來ル政戰上ノ懸念ニ關シテモ、一定ノ限界ヲ置
 キ居ル次第ナリ。從テ今後獨蘇戰線ノ趨勢ガ如何ナル進展ヲ見ル場
 合ニ於テモ、少クトモ米國ヨリ進デ媾和ヲ主張スルニ至ルガ如キ事
 態ハ今日ノ所先ヅ之ヲ豫想スルニ難シ。

次ニ實利的見地ニ立チテ之ヲ見ルモ、米國ハ戰爭ノ進展ニ伴ヒ益々
 中南米諸國ヲ壓迫シテ其ノ對樞軸政策ヲ強化セシメ、樞軸側既得權
 益ノ沒收破壊及日獨伊在留有力者ノ驅逐等ニ依リ、中南米ニ於ケル
 樞軸勢力ノ排除ニ努ムルト同時ニ、前大戰當時ノ例ニ倣ヒ、英國ノ

INT 577

46

921

3126

對中南米投資及利權買上ヲ行ヒ、兩策ヲ併セテ其ノ西半球制覇ヲ確
 立セシムルヲ得ベク、現ニ開戰以來「リオデジャネイロ」ニ於ケル
 汎米外相會議等ヲ利用シ、著々此ノ種方策ヲ實行シツツアルノミナ
 ラズ、開戰後英國其ノ他ト締結セル「リース・レンド」契約中ニモ
 特ニ一項ヲ設ケ、米國ノ貸與セル武器軍需品ニシテ戰後米國自身又
 ハ西半球ニ於テ利用シ得ベキモノハ、之ガ返還ヲ期待スル旨ヲ規定
 シ居ルガ如キ周到振リヲ示シ居リ、他方最近濠洲及加奈陀等ノ米國
 ニ對スル依存傾向愈々顯著ニシテ、米國ノ「アングロサクソン」諸
 國內ニ於ケル指導的地位モ、亦益々確立セラレツツアル趨勢ナルヲ
 以テ、米國トシテハ寧ロ戰爭ヲ長引カシメ、如上ノ事態ヲ一層發展
 セシムルヲ以テ有利トスベク、從テ此ノ觀點ヨリスルモ、戰局央バ

INT 577

47

922

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

3126

次ニ英米首腦者ノ演說聲明其ノ他ニ依リ、彼等ノ戰爭目的ヲ檢討スルニ、何レモ民主主義及自由ノ擁護、「アトランチック、チャーター」ノ實現等ヲ、極メテ漠然トシテ高唱スルカ、或ハ又「ナチズム」「ファシズム」打倒、日本ノ詐謀絶滅ヲ唱導スルノミニシテ、今次ノ戰爭カ何カ故ニ起リ來レルヤ、及將來之カ再發ヲ防止スルニ足ルベキ公正且建設的ナル方法如何等ノ點ニ關シテハ、何等傾聴ニ値スベキ主張アルヲ見ス、要スルニ英米兩首腦者ノ演說何レモ前大戰ニ於ケル「ウイilson」大統領ノ諸演說ニ比シ、風格頗ル低調ナルヲ感ゼザル能ハズ。

唯米國大統領ガ開戰劈頭（十二月九日）ニ於ケル演說ノ末段ニ於テ「吾人ガ眞ニ目標トシツツアル所ノモノハ慘惡ナル戰場ヲ遙カニ超

外務省

日本經濟新聞社

INT 577

49

934

3126

ニシテ米國ガ進デ媾和ヲ策スルガ如キコトハ先ヅ之無カルベシト觀ルノ外ナシ。

日本經濟新聞社

INT 577

48

933

REEL No. A-0300

0300

アジア歴史資料センター

3126

越セル所ニ存ス。吾人ハ今回ノ如ク愈々干戈ニ訴フルノ已ムヲ得ザルニ至リタル場合ニ於テモ、吾人ノ力ハ之ヲ終局ノ善ヲ扶養シ當面ノ惡ニ抗爭センガ爲ニノミ用ヒントル決心ヲ有ス。我等米國人ハ破壊者ニ非ズシテ建設者ナリ、我等ハ今ヤ戰爭ノ眞唯中ニアリ、然レドモ我等ノ戰爭ハ征服ノ爲ニモ非ズ、復讐ノ爲ニモ非ズ、唯米國ノ象徵スル所ノ凡テノモノヲ、我等ノ子孫ノ爲ニ安全ニ擁護センガ爲ニ戰ヒツアルモノナリ。我等ハ日本ヨリノ危険ヲ除カント欲ス然レドモ一方右目的ヲ達成シ、他方殘餘ノ世界ヲ舉ゲテ「ヒットラー」及「ムッソリニー」ノ制壓ニ委スルニ至ルガ如クンバ、吾人ハ遂ニ何等得ル所無キニ終ラン。吾人ハ今次ノ戰爭ニ勝タントス、而シテ我等ハ次デ來ルベキ平和ニ於テモ勝タント欲スルモノナリ。」ト

INT 577

50

925

3126

唱ヘタル一節アリ、其ノ後右一節ニ基キ「平和ヲ克チ得ン」
Win the peace ト唱ヘ戦後公正ナル平和ヲ招來スベキ準備ノ必要ヲ唱導スル者ナキニシモ非ザルモ、多クハ少數宗教家、婦人團體ノ領袖等ノ聲ニシテ、洵ニ寥々タルノミナラス這般ノ議論ヲナスニ先立チ先ヅ戰ニ勝タザルベカラストナス議論ニ壓倒セラレ氣勢甚ダ舉ラザルガ如シ、此ノ間ニアリテ「フーバー」前大統領等第一次大戰ニ於ケル「ウイilson」大統領ノ大理想ガ、講和會議ノ際歐洲政治家ノ爲ニ無慘ニ踏ミ躪ラレタル經緯ヲ明カニシテ、國民ヲ誠シメツツアル者アリト雖モ、此ノ種誠告ガ果シテ奈邊迄大衆ノ注意ヲ惹キ居レルヤハ頗ル疑問ナリト見ザルベカラズ。更ニ前述ノ如ク少數乍ラ戦後ノ世界平和確立ヲ論ズル者ト雖モ、其ノ多クハ英米ノ結合ニ依リ平

INT 577

51

3126

輕キニ失シタリトナスガ如キ主張頗ル有力ナルモノノ如クニ報セラレ居ルノミナズ、本年三月十日香港捕虜虐待問題ヲ議會ニ報告スルニ當リ、「イーデン」外相ガ、我國ニ對シ言語道斷ナル暴言ヲ敢テシタルガ如キハ、我國トシテ特ニ留意ヲ要スルモノアルベク、又米國ニ於テモ大統領等ガ重慶側ノ宣傳ヲ聲援スルハ勿論、在米一部不逞鮮人ノ蠢動ヲモ助成シ四月二十日ノ演說ニ於テ滿洲及朝鮮ノ獨立ヲ云々シ、最近ニ至リテハ太平洋戰爭會議ノ席上ニ於テ、「ジャバン、フォア、ジャパニーズ」云々ノ標語ヲ作り、我國ノ大陸ニ於ケル地盤ヲ悉ク奪ヒ去リ、日本ヲ裸ニスベシト主張スルニ至レルガ如キ實情ナルヲ以テ、所謂「アトランチック、チャーター」末段ノ適用トシテ英米ガ我國ニ課セント欲スル所ノモノハ、之等英米首腦者

外務省

日本標準規格B5

IMT 577

53

338

3126

和ヲ保障セント唱フルノ類ニシテ、「ハル」國務長官ノ如ク經濟上ノ自由平等ヲ基礎トセル世界平和樹立ヲ説ク者ニ於テモ、前回大戰以來攪亂歪曲セラレタル世界經濟機構ヲ、如何ニシテ新タナル軌道ニ上ラシムベキヤ、或ハ又徒ラニ英米ノ結合ヲ唱導スルモ、米國ノ如キ經濟力強大ナル國家ガ經濟力弱小ナル國家ニ對シ、米國ノ所謂「戰爭ニ達セザル」 Short of war 方策ニ依リ經濟的壓迫ヲ加ヘ我利又ハ我執ヲ強ヒントスルガ如キ事態ニシ、如何ニシテ之ヲ制御セントスルヤ等ノ重要ナル實際問題ニ關シテハ、敢テ回答ヲ與ヘ居ラズ、從テ彼等ガ利己憎惡僻見ヲ超越シ眞ニ世界平和ノ確立ヲ考案シツツアルガ如キ傾向ハ今尙之ヲ求ムルニ由ナシ。殊ニ英國ニ至ツテハ、獨逸廢黜論、即チ「ヴェルサイユ」條約ノ對獨條項ヲ以テ

外務省

日本標準規格B5

IMT 577

52

338

3126

唯此ノ間「クリップス」卿ノ印度派遣ニ依リ、印度獨立問題ガ米國ノ論壇ヲ賑ハスニ至リテ以來、米國ニ於テモ東亞ニ於ケル被征服民族ノ解放及人種平等ノ達成ヲ高唱スルモノ頻出スルニ至レルハ、東亞ノ新秩序建設ヲ主張シツツアル、我國トシテ頗ル興味深キ傾向ト言ハザルベカラズ。今之ガ一例トシテ本年五月三十一日ノ「ニューヨーク・タイムス」ガ同日同新聞紙上ニ發表セラレタル「パール・バック」女史ノ人種平等論ヲ支持シテ掲ゲタル論文「友誼ノ戦略」ノ一節ヲ譯出スレバ左ノ如シ。

「吾人ガ成功ヲ以テ之（白人ノ壓政ヨリ寧ロ同族ノ壓制ヲ撰ブベキ傾向）ニ對處スルノ道德ハ東西人種ノ平等ヲ容認スルニアリ。蓋シ茲ニ所謂平等ハ教育上ノ平等、産業力上ノ平等、生活程度ノ平等ニ

(日本標準規格B5)

INT 577

55

999

3126

ノ言説ニ依リ明カニ之ヲ窺フヲ得ベシ。

外務省

(日本標準規格B5)

INT 577

54

999

REEL No. A-0300

0312

アジア歴史資料センター

アラブ、同様ノ自由ト機會ヲ與ヘラレタル一個人ト一個人トノ對比ニ於ケル權利ト責任ノ平等ナリ。東万人種ガ西人帝國主義ノ仁惠の諸相ニ負フ所アリタルハ蓋シ言ヲ俟タズ、醫術、衛生、死亡率ノ低下、多クノ場合ニ於ケル生活條件ノ改善、或ル場合ニ於ケル國內混亂、同族壓制ニ對スル保護等何レモ然リト云フヲ得ベシ。然レドモ優越者ヨリ劣等者ニ示ス性格トシテノ仁惠ハ既ニ時代遅レナリ。吾人ハ今後印度人、支那人ヲシテ民主主義的世界ノ同胞市民トシテ、我等ニ對シ有用タラシメ得ルト同等ノ程度ニ於テノミ、吾人自身印度人、支那人ニ對シ眞ニ有用タリ得ベキナリ。玆ニ「パール・バツク」女史ガ恐レズシテ直言セル方途アリ。即チ吾人ハ仍テ皮膚ノ色彩ヨリ來ル障壁ヲ撤去スルヲ得ベク、同女史ノ所謂「支那人ガ吾人

ノ側ニ加ハラザルベキ東人西人ノ戦争」ニ備フルヲ得ベシ、如上ノ大勢ニ處シ公明ナル米國人ノ撰ブベキ道程ハ同時ニ今次ノ戦争及其ノ後多年ニ亘ツテ來ルベキ平和ノ兩者ニ於テ捷利ヲ克チ得ベキ大道ナリ。友誼ト理解アル心情ノ向フ所ニハ機械化部隊ヲシテ相次デ來ラシムルノ要蓋シ之無カルベキナリ」云々。

唯極メテ最近ニ至リ（五月三十日）米國々務省第一次官「サムナー・ウエルズ」氏ハ其ノ招魂祭ニ於ケル演說中ニ於テ戦後ノ平和機構ヲ論ジ、前大戦ニ於ケル米國ノ國際聯盟參加拒否ヲ以テ今次大戦ノ一大原因ナリト説キ、今次ノ大戦後ニ於ケル諸民族ノ解放、入種平等ノ確立等ヲ強調セル外、

（一）戦争責任者タル個人、集團及國民ヲ處罰スルト共ニ、苟モ責任ナ

3126

キ民衆ニ對シ上述ノ處罰ヲ轉嫁スルガ如キコトナカラシムルコト。
 (二)米國及其ノ與國ハ戰後相當期間ニ亘ルベキ休戰時期內ニ於テ、「ア
 トランチック・チャーター」末段ノ趣旨ニ基キ侵略國ノ軍備撤廢
 ヲ行フコト。

(三)一般平和保持ニ關スル永久的機構ノ確立ヲ見ルニ至ル迄、米國及
 其ノ與國ハ國際警察力ヲ維持行使スベキコト。

(四)先ヅ戰爭直後ニ起ルベキ經濟的及社會的問題ノ處理ヲ了シタル後
 米國及其ノ與國ヲ基礎トセル國際組織ヲ構成シ、以テ公正誠實ニ
 シテ且永續性アル平和ノ最終條件ヲ決定スルコト。

(五)戰後缺乏ヨリ解放セラレタル世界秩序ヲ建設スベキ道程ニ於テ、
 能ク指導者タリ得ベキ國力及資財ヲ有スルハ獨リ米國タルベキコ

IMT 577

58

3126

ト。

(六)汎米協力機構ハ之ヲ繼續スルコト。

等ヲ高唱セリト報道セラレタルガ、右ハ同次官ノ地位ニモ鑑ミ平
 和ニ關スル米國政府ノ具體的意向ノ一端ヲ表明セルモノトシテ頗
 ル一般ノ注意ヲ惹キ、殊ニ戰後最終的平和條件ヲ確定スルニ至ル
 迄ノ過渡的期間トシテ相當長期ニ亘ル休戰期間ヲ設ケントスル點
 及右期間內國際警察力ヲ組織セントスル點ハ、特ニ内外各方面ノ
 注意ヲ喚起セルモノノ如シ。

右「ウエルズ」次官演說ノ直後之ニ共鳴セリト稱スル蘇聯ガ在蘇米
 國新聞通信員ヲシテ蘇聯ノ媾和條件ノ一部トモ見ルベキ諸條項ヲ打
 電セシメ、其ノ中蘇聯安全保障ノ必要區域トシテ「バルト」三國、

IMT 577

59